

# トマソン隊じゃないから



甲子園編 by うさお

阪神タイガースの今年の健闘ぶりに、Caccoは連日、スカパー：ガオラ（CSの野球チャンネル）を観戦し、一喜一憂、切歯扼腕、隔靴搔痒、艱難辛苦、意味不明（真弓監督や新井さんに向けて）、青天霹靂、絶体絶命などの四字熟語を多発させながら応援をしております。時たま、食事中でも「あっ！」と大きい声上がるのはご愛嬌というもの。茶碗を落としちゃいそうになります。うさおが・・・。

うさおは野球にはあまり興味が無いが、Caccoは義父さん仕込みの阪神ファン。Caccoの姉妹がベイスターズ（地元郷土愛）やヤクルトのファンなので父親の遺志を継いだのはCaccoだけか。

その所為もあって倅は赤ちゃんの時から、阪神タイガース柄のパジャマを着せられ、トラッキー人形で育ちました。小学生、中学生、高校生、大学生と、ず～と野球三昧だ。（学業はどうした？）彼の人生の中で阪神ファンも何かの支えになると考え自由にさせていたが、趣味が野球（母親）と漫画（父親と母親）ではいささか不安だ。



阪神グッズは毎年バージョンが変わる。去年あったものが今年もあるかと言うとそういうことは無い。気に入ったものがあれば、その年に入手しておいた方が良いでしょう。今年のトラッキーはテーマが「デカ顔」だ。だからこんな風なマグカップが売られているのだ。早速、買ってきました。

さて、去年大阪支店に営業に回った時のこと、訪問先に阪神電鉄さんがありました。大阪支店長と一緒に阪神電鉄さんに名刺配りをした後、「うちの家族は阪神ファンで・・・」と話すと、「あっ、じゃあこれなんかは如何ですか」と紹介してくれたのが、甲子園のリニューアルの際に行われる、とあるサービスだった。ほら、ここで申込書が手に入りますよと阪神電鉄梅田駅に連れて行かされた。

ああ、家族サービスには確かに最高だなと思いい手に入れてきたのがこれ。甲子園に敷かれる焼成煉瓦にファンの名前を刻めるというもの。ただし、製作、設置料が20100円。こんな高いもの、どうすんのと苦情を言われるなと思いきや豊岡らんや、「あれっ、安いっ！いいじゃん！いいじゃん！」と大喜び。意外な反応に少し戸惑う「うさお」。

20100円とは2010年を記念してのこと。



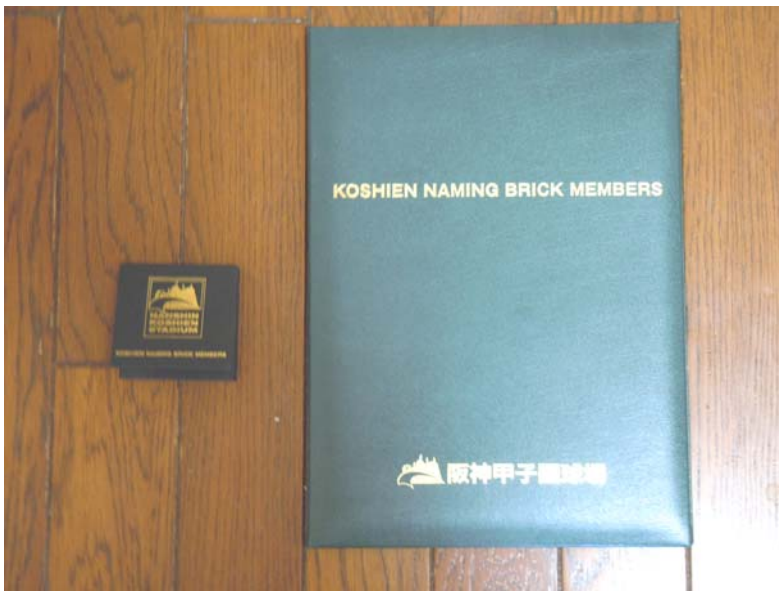
2009年朝日新聞に報道された関係記事

煉瓦には3行の文字が刻めますが、字数には制限がありますので、Caccoと倅は随分と頭を捻っておりました。阪神への応援は入りたい、亡くなったおじいちゃんの名前も是非入りたい、自分たちの名前を入れることは勿論のこと、ライ隊員の名前も入りたい、と大変欲張ったものでした。出来るの？傍観者の立場をとる「うさお」

3日間くらい考えていました。あんまり長いとサービスが終わっちゃうよって、はらはらしてましたが漸く決心がついたのか申し込みをしました。

「NoTigers Nolife  
Toyoji Sugimoto  
Isao Cacco Sou R」

ライ隊員は「R」だけだったね。



数日経って阪神甲子園球場から送ってきたものがこの証明書。

おお立派ですね。卒業証書のような。それに甲子園の砂が封入されたコンパクトのようなものも付いてきた。それと甲子園歴史館の入場券（一回だけね）。これで2万円、安いのか、高いのか。

今年の夏、うさおの会社に西日本支社が出来ました。九州支店、大阪支店、名古屋支店を統括する部署です。支社長と大阪支店長とで鉄道運輸機構さん、JR西日本さん、アーバンエースさん、勿論阪神電鉄さん



に挨拶に行きました。特に阪神電鉄さんには、もしかして何かグッズを貰えないか期待交じりです。電鉄の部長さんは名刺を呉れますが、グッズは呉れません。(グッズだ、早くグッズを出すのだ、名刺なんかいらん。)眼で相手に語りかけます。伝わりません。肩を落として帰ることに…。支店で反省会を開きます。そう言えば大阪支店長は隠れ巨人ファンです。だから熱が入っていないんだ。この日は東京からうちの部の課長2名、担当部長1名が参加しました。あっ、課長の一人は

阪神電鉄と仕事をしていなかったじゃないか。何か貰ってくるんだ、その位の気配りは必要だぞ、「うさお」に・・・。

その日は東京に帰ったことにして、大阪に一泊。翌日、甲子園に取材に行きました。「甲子園球場」は大阪人には説明も要らないほど有名ですが、この地は大正時代に阪神電鉄によって拓かれた郊外住宅地で、香櫨園、甲東園、甲陽園、甲風園、苦楽園、昭和園と呼ばれる西宮七園のひとつなのです。



TV東京の「美の巨人たち 遠藤新 旧甲子園ホテル」をご覧になった方は多いのではないだろうか？そこで語られた甲子園会館は、昭和5年に甲子園ホテルとして建設され、今は武庫川女子大学の教育施設として用いられています。設計は遠藤新でありフランク・ロイド・ライトの愛弟子としてライトをして「my sun」と言わしめた人物です。従ってどう

見てもライト風の建物です。さらに協力者として、帝国ホテルの常務取締役で、ホテル界の第一人者といわれた林愛作が設計に参画しました。

この建物を見るにはJR「甲子園口」で降りなければなりませんでしたが、迂闊なうさおは阪神「甲子園」で降りてしまいました。

そりゃあきよるきよるしたって見つかる訳ありません。まあこんなに歩けやしないから良かったけどね。今度、Cacco達と来る時には、是非「甲子園口」で降りてみよう。

さて、阪神甲子園駅は降りた途端に「あれれ・・・寂れた駅だなあ・・・」と思わせる何とも錆が目につく駅でした。つまりは手すりや柱が塗りのものが多かったってことですね。東京近辺はメンテナンスの手間を省くためにステンレスやらアルミやらさびない材料を使ってますね。逆にほのぼのとした慕情を感じるのは



何故でしょう。

兎にも角にも降り立ったのはうさおを含めて10人くらい、あちらをぱち、こちらをぱちとカメラを向けているうちにホームにいるのは駅員さんとうさおだけ。試合も何も無いからね。

まあ、降り立ってみましょう。そこは駅の東側、バスのロータリーで、普通と違うのは阪神のマークがやたらと目に付くところ。後でわかったことだがどうやら中央口と呼ばれる処で降りると、そこが阪神ファンの王道のようだ。



高速道路  
この後ろに球場が...

阪神—巨人戦が行われた日のもの



高校球児の夏の大会も、各校のメンバーや応援団は何処にいるのだろう。周りにひしめいているのかな？高速道路の下が広い歩道になっているのでそこに居るのかもしれない。今は誰もいないけれど放送局？と思われる運搬の車が来ていた。



小洒落たグッズ・ショップや屋台のような差し掛け風の食いもの屋、みやげ物屋が軒を連ねていた。しかし、ゲームの日では無かったので全て扉を閉めていたので気がつかなかった。

ロータリーを渡りきるとそこは高速道路がどんでんと構えており、下を潜ると阪神甲子園の建物が透けて見えてくる。

この高速道路が邪魔だなあ。球場の全景が撮れないじゃないか。気がつかないと球場が見えないものだから、反対側に来ちゃったかと勘違いしちゃう。後日、阪神がセントラルリーグ戦2位になったため、阪神—巨人戦が甲子園で行われることとなり、なんとCaccoと来ることになろうとは、この時は露ほども思わなかった。

高速道路の下を潜っていくと、甲子園球場が見えてくる。それにしても都市計画が悪いなあ。甲子園駅前はホンの少しの人間で溢れてしまいそうだし、球場に車で来る人のルートは取れていないし、道路も狭い。第一民家が近いのだ。ぶつぶつ文句を口の中で言いながら、球場の外周を巡ってみた。

甲子園は蔦が絡まるイメージがあったが、リニューアル直後のことで、かつてのレトロぽさは微塵もなかった。それでも外壁に蔦を絡ませようという努力は見られ、このような感じで無理やり配置していた。

その時に感じたのが、球場の周りのクリアランスの狭さだ。狭いと思う神宮球場も周囲は広い。後樂園球場は周りがよく判らない。



もう少し、一塁側に移動してみよう。

見ると敷き煉瓦の色が微妙に異なる場所が見える。ここだ、ここだ、早速近づいて見ることとした。しかし、季節は秋だと言うのに異常に

とりあえずぐるっと回ってみよう。煉瓦に名前が刻み込まれているのを確認に来たのだから、早く見つけなくちゃあ。

そうこうしている間に裏側(外野側)に出たぞ。ここは少し開けた処で、球場と相對するところにモニュメントがあった。

どうやら高校野球の時に使われるもののようなのだ。この下にも窯変煉瓦が敷かれていたが、何にも文字らしきものが無い。あれれ・・・、大枚叩いて甲子園まで来たけれど、やっちゃいましたか？

不安がよぎる。それにしても暑い。残暑が残っているざんしょ！って、言っても口に出すだけ暑い。朝のうちなら涼しいかと思っただが、ここ甲子園は南側がばさっと空いており陽あたり最高なのだ。

空は抜けるように青く、球場に場違いなスーツ姿のうさおはネクタイまできっちり締めていた。

まあ、サラリーマンの鏡やね。と言いつつ、あまりの暑さにネクタイは外した。

もう帰りたいなあ。でも、煉瓦の写真を撮ってこないと、Caccoと倅が怒るなあ。第一、うさおは野球なんかに興味は無いし・・・。

おやっ、向こうから綺麗なお姐さんが来るぞ。あっ、甲子園歴史館に入って行った。ここは後で入って見なくてはなるまい。何故って言われても、どうしてもだ。





それよりも「B3-123」番の煉瓦は……うん、好い番号だね。ありました、ありました。頼んだ通りに彫り込んであるようです。ライ隊員の名前も麗々しく刻んであります。良かったね。「R」だけだけれどね。ライ隊員も向こうの世界で喜んでいると思います。

暑いじゃないか。

煉瓦に刻まれた文字で初めに気が付いたのは、スポンサーの企業の名前だ。流石にお金の出し方が違うのか企業のロゴマーク入りだ。

キリンなどのメーカーの名前が出るのは分かるが、日本盛は何だろう。スタンドで日本酒飲んでる人っていたかなあ。

あまり、球場ぼっくはないなあ。

このメーカー名のチェックも意外と面白いかもしれない。

まあ、それは兎も角として、私達の煉瓦を探そう。

おっ、これは何だ、「智弁和歌山」？

高校野球の学校名だ。彼らもお金を出したのか？甲子園に出るのも楽じゃあ無いなあ！



違うか……？これは甲子園のほうで記念に出場校の名前を刻んでくれたんだな。このお金は企業の出展費の中に入っているのか、私達の煉瓦の費用の中に入っているのか？

まあ、そこいら辺は自分たちが出したものとして、少しおおらかな気持ちで見ることしましょう。





まあ、この煉瓦を見ることが出来て本当に良かったです。

おまけになりますが、甲子園歴史館をご紹介します。先ほど綺麗なお姐さんが入ったところですね。確かにお姐さんは涼やかに受付をしておりました。お客さんはうさおとあと二人と言う、閑散とした雰囲気でした。でも冷房が利いていて気持ち良かったです。

(お姐さんを激写出来ずに申し訳ありません。矢澤さんや日出彦さんのように

ずうずうしく撮らせてと申しこめないうさおの消極性が恨めしい。)

入るとすぐに二階に通じる緋毛氈の敷かれた階段があります。それを登ると歴史館と高校球児たちの記念館になるのですが、普通の二階より階段数が多く、でっぷりとしたうさおには辛いものでした。ぜえぜえ……。

薄暗い館内は蒸し暑い大阪を少し忘れることが出来ました。ぬっと立っている人影が……





ではなく、歴代選手のユニフォームでした。真夜中だったら悲鳴を上げていたよ。「77」は今話題になっている星野仙一のものだ。

下は優勝カップの類だ。



こりゃあ誰だ。藤村甲子園か？あれは漫画だったっけ？タイガースのファンには堪らんところかも…。



おっ、大好きな時代の掛かった写真があった。昔は屋根が無かったんだね。





この屋根、鉄傘とか、銀傘とか呼ばれていたようで、少し歴史を追ってみましょう。

ピントづれているところは御愛嬌というものだ。しかし、球場は確かにでかい。順不同ね。



ここからが高校野球の記念展示だ。あつ、また綺麗なお姐さんが展示を直している。

まともや無断で撮っちゃいました。これじゃあ、マーシーと同じだね。

さて、次号ではいよいよC a c c oと行った甲子園をお届けします。ちょっと季節はずれになっちゃうけどね。